

障がい者雇用について思う

秋晴の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

当社は、障がい者と母子家庭の支援は出来るだけ積極的に行っていきたいと思っています。理由の一つは、私の弟に障がいがあった事と私自身が母子家庭育ちだからです。



代表取締役社長 吉田治伸

10年ほど前、まだ私が支店長だった頃、障がいのある人を雇いました。現場に配属するとすぐに責任者が飛んできて、「(私に)倍働けという事ですか？」とクレームを言われました。時は流れ、最近では、障がい者を配属すると「私がこの子をここでちゃんと働けるようにしてあげる」と涙が出るような言葉を言われる事もできました。これは会社が変わった事と世の中が変わった事両方でしょうが、大変うれしい事です。

我々の仕事はイメージほど障がい者が働きやすい仕事ではありません。なぜなら、それぞれが責任をもってパート・パートを行う仕事だからです。しかし、長く障がいのある方が働き続けている事業所に共通する事は、「助け合う」心や「思いやる」心があふれている事です。障害のある方を雇い入れる事は、会社全体が良い方向に向かう事に他ならないと思います。

当社の障がい者雇用率は、義務とされる1.8%に残念ながら届いておりません。それは、どうしても障がい者を雇い入れにくい仕事がたくさんあるからです。来年4月には雇用率は2.0%に上がり、入札要件になるような動きもあります。

是非、皆様のご協力お願い致します。

残暑はまだまだ厳しいようですがご自愛下さい。